



TITLE:

東亞天文協會觀測部月報

AUTHOR(S):

---

CITATION:

東亞天文協會觀測部月報. 天界 1937, 17(192): 238-241

ISSUE DATE:

1937-03-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167440>

RIGHT:

## 東 亞 天 文 協 會

## —( 観 測 部 月 報 )—

## 1936年末の土星輪消失の観測報告

幸ひ好晴の爲めに、可なり満足に観測出来た。唯、慾を云へば、月明があつたのと観測の報告者が少なかつた事である。報告を表にすれば

日 付	前 田 (京都) 108mm 250×				渡 邊 (大分) 155mm 155×				木 邊 (滋賀) 101mm 100×				木 邊 (滋賀) 318mm 250×			
	時刻	S	アン サ	参 考	時刻	S	アン サ	参 考	時刻	S	アン サ	参 考	時刻	S	アン サ	参 考
12月21日	—	—	—	—	<sup>h m</sup> 18.30	5	4—5	—	—	—	—	—	—	—	—	—
22	<sup>h m</sup> 19.30	8	2	月明	18.30	3	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—
23	—	—	—	—	18.30	7	2—3	<sup>h m</sup> 17.30	6	3	dim	<sup>h m</sup> 18.30	4	4—5	—	—
24	20.00	7	1	月明	17.30	8	2—3	薄明	—	—	—	—	—	—	—	—
25	19.10	8	1	月明	18.30	7	2	—	18.15	7	2	—	18.30	5	5—4	—
26	—	—	—	—	18.20	5	1—0	—	19.20	6—7	1	辛じて見えぬ	19.30	5	4	—
27	—	—	—	—	—	—	—	—	19.10	3	0	—	19.30	1	3—2	—
28	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	19.15	5	1—2	ウス雲
29	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	18.40	6	2—1	花山 Cooke にて
30	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	18.20	4	0	ウス雲? 見えぬ

(S=シィング, アンサのスケールは数値の小さいもの程淡い。月は28日迄明かつた)

10cm では25~6日まで見た様である。30cm に依れば、29日迄は明かに見えて居たが、30日にはどうしても見えなかつた。(但しこの日少し薄雲があつた?) 31日は曇りで観測出来なかつた。變光星を観測すれば氣付く事だ

が、微光の星は、まともに見るよりも、少し目を外した方がよく見える。28日(薄雲があつたが)及29日の様子は、目を外して見得る程度であつて、第3又は第4衛星も(比較するのは無理だが)可なり見難かつた。6月の場合と異つて、地球に對しては未だ可なりの傾斜があつたから、ボンヤリした輪であつて、本體に近い方が明かに太かつた。猶ほ倍率は中程度(1cm に付き10倍内外)が見易かつた。

又、本體に投ずる輪の影は、豫期に反して、非常に見易く、巾こそは狭いが、北の Belt よりも黒く、常に 10cm で認めるのに困難ではなかつた。

消失後の様子。1月には快晴と、良好なシーイングの揃つた日が殆んどなかつたので、30 cm を使用して、スケッチ出来る程の觀測は無く、輪は見えなかつたと云つた方が正しい。僅かに1月11日のみ、30 cm の口径で、辛じて、極めて淡く、本體の近い所と、少し離れた(カシ=溝附近)所に認め得た様である。但し、その明るさは、12月29日より遙かに淡く、同時見て居た最微の衛星(多分エンセラッズ)よりも見難い程で、スケッチにする事は不可能であつた。所謂 Illusion と區別し兼ねる程度であつた。

要するに、此の期間は無收穫に終つた様である。(木邊記)

## 遊 星 面 課 月 報 (2月)

例年通り冬枯れ時とて見取圖1枚も送付無し。火星も近付き今月は火星特輯號の事とて火星についての詳細は記事を参照され度く、いよいよ本格的に火星協同觀測に入る。10糧にても可、15糧なら尙更結構是非觀測に従つて頂き度い。報告は毎月末か又は8月頃全部をまとめて報告の事。見取圖用紙は花山天文臺宛申込まれ度し。用紙使用上注意すべき點を下記す。

觀測時刻は經度決定の時刻を記入の事。 $\omega$ =火星面の中央經度。 $\phi$ =同中央緯度を記入。Dia=火星直徑。火星の色は見掛け上赤味がかつてゐるとか黄色が強いとか、像全體の色彩を記入。暗黒部の濃度は火星上の海と云はれる地方の見掛け上の濃さで別に標準は無く、濃いと直感すれば濃し。又少し淡いと思へば稍々淡しと云ふ様に記入す。備考は各細部につき出来るだけ詳細

に記する事. スケツチは黑色鉛筆又は色彩畫にても可.

其他雲の出現, 其他の變化等を認むれば能ふ限り速かなる方法を以て幹事へ通知する事. 觀測の便宜の爲火星の表を下記す.

月日	視直徑	中央經度	中央緯度	歛度	火星の日付	月日	視直徑	中央經度	中央緯度	歛度	火星の日付
4月1日	12.09	291.67	+8.01	0.931	8月30日	5月1日	16.31	19.00	+9.13	0.983	9月5日
2		282.43						10.07			
3	12.35	273.20	7.93	0.934	32	3	16.57	1.16	9.38	0.986	7
4		263.97						352.26			
5	12.61	254.77	7.88	0.937	34	5	16.83	343.37	9.66	0.989	8
6		245.57						334.49			
7	12.88	236.38	7.84	0.940	36	7	17.07	325.61	9.95	0.991	10
8		227.20						316.75			
9	13.16	218.03	7.82	0.944	38	9	17.29	307.90	10.27	0.994	12
10		208.87						299.05			
11	13.44	199.72	7.82	0.947	40	11	17.50	290.21	10.60	0.995	14
12		190.58						281.38			
13	13.73	181.46	7.85	0.950	42	13	17.70	272.55	10.94	0.997	16
14		172.34						263.73			
15	14.01	163.23	7.90	0.954	44	15	17.87	254.92	11.29	0.998	18
16		154.13						246.11			
17	14.31	145.05	7.97	0.957	46	17	18.02	237.31	11.65	1.000	20
18		135.97						228.50			
19	14.60	126.91	8.07	0.961	48	19	18.14	219.71	12.02	1.000	22
20		117.85						210.92			
21	14.89	108.81	8.18	0.965	50	21	18.24	202.12	12.38	1.000	24
22		99.78						193.33			
23	15.18	90.76	8.32	0.969	52	23	18.32	184.53	12.75	0.999	26
24		81.75						175.74			
25	15.47	72.75	8.49	0.973	54	25	18.37	166.95	13.12	0.998	28
26		63.77						158.15			
27	15.75	54.79	8.68	0.976	9月1日	27	18.40	149.35	13.47	0.997	30
28		45.82						140.55			
29	16.03	36.87	8.89	0.980	3	29	18.40	131.75	13.82	0.995	32
30		27.93						122.94			
31						31	18.38	114.37	14.16	0.992	34

## 太陽課 黑點相對數報告 (1937年2月)

觀測者(觀測地)	齋藤(臺灣臺中)	久保(高知高等學校)	伊達(兵庫縣雲雀丘)	改發(神戸市關守町)	野口(大阪市北區)	木邊(滋賀縣中里村)	正村(岐阜市溝旗町)	沓掛(長野縣青木村)	清水(靜岡縣島田町)	大石(靜岡縣吉永村)	淺居(橫濱保土谷區)	森久保(橫濱市中區)	堀田(橫濱市鶴見區)	山名(東京市板橋)	御供(東京市立一中)	千葉(岩手縣水澤町)
鏡徑耗	50	75	80	150	76	75	25	102	100	55	58	45	38	76	48	50
倍率	50	53	70	68	50	60	48	75	73	64	60	60	50	77	50	50
1	雨	曇	216	欠	曇	曇	曇	258	219	曇	曇	曇	曇	503	曇	曇
2	215	223	曇	342	曇	181	175	220	229	164	194	曇	曇	雨	曇	曇
3	199	243	229	欠	265	182	曇	251	258	164	194	曇	曇	雨	187	185
4	欠	267	241	288	欠	245	163	222	242	186	186	189	102	258	151	162
5	168	244	198	970	181	258	127	191	196	174	160	223	81	307	147	146
6	150	217	雨	雨	欠	曇	曇	曇	218	163	159	曇	103	曇	曇	欠
7	97	曇	曇	曇	曇	曇	曇	雨	雨	曇	雨	曇	曇	曇	曇	曇
8	欠	138	曇	欠	曇	131	78	107	曇	曇	雨	曇	曇	曇	曇	曇
9	曇	155	85	127	曇	69	90	132	113	曇	95	曇	曇	曇	84	78
10	曇	曇	曇	欠	曇	94	曇	96	139	曇	曇	曇	34	曇	曇	曇
11	曇	79	曇	曇	曇	雨	曇	曇	雨	雨	曇	曇	曇	曇	曇	曇
12	曇	雨	雨	曇	曇	雨	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
13	曇	79	曇	曇	曇	雨	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
14	曇	102	89	121	88	86	74	曇	84	欠	88	欠	84	曇	欠	曇
15	曇	106	98	欠	欠	119	曇	92	95	93	欠	曇	72	151	82	84
16	曇	128	116	曇	曇	127	93	109	103	96	96	97	73	196	66	102
17	93	117	108	曇	曇	82	97	125	114	111	112	106	51	182	51	112
18	96	135	103	曇	曇	欠	74	140	124	77	欠	72	54	168	67	94
19	曇	124	曇	曇	曇	121	曇	142	112	48	曇	欠	64	199	77	雨
20	曇	103	103	曇	曇	112	130	81	177	106	90	112	76	227	95	98
21	曇	曇	155	欠	欠	121	158	166	128	138	132	102	247	欠	欠	93
22	曇	雨	150	曇	曇	148	178	235	曇	曇	曇	欠	欠	曇	153	151
23	曇	曇	184	曇	曇	176	曇	220	曇	曇	曇	雨	曇	曇	曇	182
24	曇	曇	曇	曇	曇	188	曇	曇	203	曇	曇	雨	曇	曇	曇	158
25	158	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	雨	曇	曇	曇	雪
26	曇	211	153	曇	曇	233	179	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	157
27	曇	雨	雨	曇	曇	曇	曇	曇	曇	183	曇	曇	曇	曇	曇	曇
28	曇	178	欠	曇	183	194	182	203	曇	172	195	欠	150	268	欠	152
日数	8	18	15	5	5	18	14	18	17	13	11	8	16	16	11	16
平均	—	168	149	—	—	153	123	174	160	130	140	—	67	251	105	125

●櫻淵氏(東京市立一中)の觀測は御供印孝氏が代つて行はれる由。

●京都の前田氏、器械修理中の由。

●清水氏の寫眞觀測はイタリック字體の16ケ日。